

つくばセントラル病院 産婦人科診療における

グループ診療制と多職種協働について

1) グループ診療制

当院産婦人科では、グループ診療制を行っています。婦人科予定手術(子宮筋腫による子宮全摘術など)では主たる責任を負う主治医制も併用・継続しておりますが、外来での妊婦健診や緊急受診時、入院後の診察・検査説明などはグループ内の医師が行うことがありますので、ご理解の程よろしくお願いたします。特に分娩、帝王切開や流産手術など産科診療は、時間の予測がつかないこともあります。複数の方が同時に分娩進行、緊急帝王切開となることもあり、その時の状況で医師の担当を急に変更することもあります。外来で説明した医師と異なったり、手術同意書に記載がない医師が担当することもあります。ご理解のほどよろしくお願いたします。

病状の経過や検査データは、電子カルテ内の情報を診療部内で共有します。ミーティングや回診などを通し、治療方針などを検討・確認しながら診療を行います。

2) 多職種協働について

医師だけではなく、助産師・薬剤師などが協働して診療を行います。電子カルテ上の情報だけではなく、入院患者さんについては、一緒に回診をしながら、症状の変化や体の様子など情報の共有を行っています。助産師は分娩時や授乳の支援などで長時間寄り添うことから、医師よりも症状の変化に気が付きやすいことがあります。また、薬剤師が関わることで、薬の内服指導だけではなく、副作用や併用禁忌(飲み合わせではいけない薬の組み合わせ)などのチェックを行います。さまざまな立場の視点を生かし、意見交換をしながら一人の患者さんに対するよりよいケアを追求するのが「多職種協働」です。

何かご不明・ご不安なことがありましたら、医師・助産師・スタッフなどにお伝えください。

